

# メタセコイア

(土屋中学校の樹)

＜学校教育目標＞  
**夢に向かって**  
～生徒には夢を 保護者には感動を 職員には技を～

第6号

令和5年10月2日発行  
さいたま市立土屋中学校  
さいたま市西区土屋1766-1  
Tel 048-622-4611

✉ tsuchiya-j@saitama-city.ed.jp

夢をもつこと  
～人間が人間であることの証明～

校長 澤田純一

猛暑からやっと解放されたと思いながらも、この季節にしては暑い日が続いていますね。異常気象といわれていますが、もはや異常ではなくこれが通常になってしまったのではないかと危惧をしています。澄んだ空気の中、木々の枝がしだいに色づくこの季節は私のようなバイク乗りにとって絶好の季節なのですが、秋が短くなってしまったと少々残念に思いながら、それでも楽しもうと思います。

さて、三年生の校長面接が始まりました。短時間ですが個別に質問し答えてもらっています。総じてどの生徒も服装や言葉づかいなど、面接に臨む基本姿勢はそれなりにできていると感じます。したがって合格ラインですね。自信をもってください。しかし、一つだけ残念なことがあります。「将来の夢は何ですか？」と質問すると、およそ半分の人が「ありません」「決まっています」と答えます。

OECDのPISA調査の結果によると、日本の中学生の学力は世界でもトップレベルです。点数は取るのですね。それでは、「数学が好きですか?」「理科の勉強が将来役に立つと思いますか?」との質問には「いいえ」と回答する率が非常に高いとの結果が出ています。すなわち、「数学は嫌いだけど点数は取る」「理科は役に立たないと思いながら点数は取る」という日本の中学生の姿が浮き彫りとなりました。では、なぜ日本の中学生は点数だけは高いのかということですが、高校受検があるから勉強している、つまり、受検のために勉強しているということであり、現在の学習が自分の将来に役に立つことと結びついていないのです。もう少し分かりやすく言えば「夢はないが、受検があるから勉強している」という結果ではないかと思うのです。(ちなみに他国では、数学が好きであり点数も高い。理科が将来役に立つと思い点数が高い。もしくは、数学が嫌いであり点数も低い。理科は将来役に立たないと思い点数が低い。との結果でした。日本は、点数と生徒の気持ちが正反対として出てきた珍しい国なのですね。)

本校の学校教育目標は「夢に向かって」です。私も朝礼や学校だよりで、「夢に時を刻み目標とせよ」などと話してきました。しかし、3年生の面接を通して、本校の生徒も今学習していることが将来に結び付いていないのではないかの思いが生じ、これは校長として猛省するとともに生徒に夢をもたせられない校長では存在意義がないのではないかと自問自答しました。

ところで、皆さんは職業がどのくらいあるか知っていますか?厚生労働省によると18,725の職業が存在しています。こんなにたくさんあるのですから、きっと自分に合った職業も見つかるはずですよ。そして、今の勉強が必ず将来に結び付いているのです。さあ、夢をもち、夢に向かって歩いていきましょう。それは人間が人間であることの証明なのです。秋の夜長、じっくり考えてみるのもいいですね。私は、皆さんにいかに夢をもたせることのできる校長になるかを考えてみたいと思います。

今日の話はこれでおしまい。涼しくなってきましたので風邪などひかぬよう留意してください。また来月お会いしましょう。 🍁夢に向かって フォーーン!